


I 就学前教育

「南の就学前教育の重点」

1 教育・保育の充実

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、生きる力の基礎を培う教育・保育の充実を図る。

- (1) 様々な人やもの、こととの関わりの中で、自己を発揮し、自他を認めながら協同して取り組もうとする子どもの育成
 - ① 主体的に環境に関わる教育・保育を通して、子ども一人一人が満足感・充実感を高めることができるようにする。
 - ② 発達の連続性を理解し、子どもに必要な経験を積み重ねながら、乳幼児期の教育・保育において育みたい資質・能力の育成を図る。
 - ③ 自ら考え、判断し、行動しようとする子どもを育む教育・保育を推進する。
- (2) 発達の段階を踏まえたキャリア教育の推進
 - ① 身近な人に認められたり、役に立ったりする喜びを通して、意欲的に活動し自信をもって取り組む子どもの育成を図る。
 - ② 友達や異年齢児との遊びや直接的な体験を通して、仲間や園、場所やものへの愛着心を育むことができるようにする。
- (3) 子どもの内面理解に基づいた評価及び保育の実践
 - ① 子どもの実態を把握し、ねらいと内容を明確にすることで、的確な評価につなげるよう努める。
 - ② 子どもの姿や変容を、乳幼児期の教育・保育において育みたい資質・能力や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点で見取り、発達の過程を踏まえた保育の改善に生かす。
- (4) 幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続の推進  p 3

2 園における子育て支援の充実

地域や園の実情に応じた子育て支援の一層の充実を図る。

- (1) 子育て支援体制の整備と保育者の専門性を生かした支援
 - ① 家庭の様々な状況に対応できるよう、地域の関係機関等と連携した園の子育て支援体制を整備し、協働的な取組を推進する。
 - ② 一人一人の保護者を尊重し、保護者の気持ちに寄り添いながら深く理解する姿勢を保ち、相互の信頼関係を築く。
 - ③ 保育及び子育てに関する知識や技術等、保育者の専門性や園の特性を生かし、保護者が子どもの成長に気付き、子育ての喜びを感じることができるような支援に努める。
- (2) 教育・保育と密接に関連した保護者支援の推進
 - ① 子どもの日々の様子についての情報交換や、教育・保育の意図の説明等を通じて、保護者との相互理解を図る。
【具体的施策】
保護者に対して、連絡帳、送迎時の対話、掲示板での発信等、様々な機会を活用しながら、子どもの様子を育ちの視点で情報を発信する。
また、園での生活と家庭での生活の双方が充実するよう、子どもの興味・関心のつながりを考慮した保育実践を心掛ける。
 - ② 保護者が自らの子育て実践力を高めていくことができるように、保育の活動に対する保護者の積極的な参加を促すとともに、参加しやすい環境づくりに努める。

3 地域に開かれた園運営

教育・保育の意図や園運営の基本的な方針について家庭及び地域と共有し、連携・協働を図る。

(1) 教育・保育の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの推進

- ① 教育・保育目標の達成に向け、目指す子どもの姿を明確にし、その姿を実現していくための組織的・計画的な教育・保育活動の充実を図る。

【具体的施策】

園の実態や園評価と関連付けて園目標を見直し、目指す子どもの姿を明確化する。また、その達成に向けた重点目標を設定し、組織的・計画的な取組が推進できるよう、職員間で共通理解を図る。そして、保育実践、評価・改善を通して、乳幼児期の教育・保育において育みたい資質・能力を育成していくとともに、自己評価・学校（園）評価等を通して、教育・保育の実施に必要な人的・物的な体制の充実を図る。

- ② 子どもの実態と各種計画を照らし合わせ、乳幼児期の教育・保育において育みたい資質・能力を意識した保育実践に努める。
- ③ 重点や視点を明確にした保育の記録を蓄積し、子ども理解を深めていくとともに、保育の意図と子どもの思いや願いとのバランスがとれた保育を展開することができるように努める。

(2) 園運営の改善を図る学校（園）評価の推進

- ① 評価機会を年複数回設け、改善を図るべき内容を短期・中期・長期の視点で整理し、課題解決に向けた明確な見通しをもつ。
- ② 学校（園）評価の実施及び結果の公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者・地域住民等から理解と参画を得て、連携・協働による地域に開かれた園運営を進める。

4 教職員の資質の向上

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、実践的な指導力の向上を図る。

(1) 各園の課題解決を図る、組織的・計画的・継続的な研修の推進

- ① 園長等のリーダーシップの下、計画的な研修推進が可能となるよう、組織づくりや研修内容を工夫する。
- ② 研修リーダーを核として、PDCAサイクルを機能させ、日々の保育実践を通じた知識及び技術の習得、向上に努めるとともに、保育者同士が主体的に学び合うことができる環境を整える。

【具体的施策】

保育参観や協議等を通して、乳幼児期において育みたい資質・能力の育成を図る保育の手立てについての成果や課題を捉え、その後の保育改善の視点とし、実践に生かすことができるようにする。

研修内容や運営についての評価（中間、年度末等）を実施し、改善を図る。

研修への全員参加が難しい現状を踏まえ、研修期間に幅をもたせたり、小グループで進めたりするなど、研修の運営方法を工夫する。また、参加できなかった保育者と内容を共有できるように記録の掲示、回覧の仕方等を工夫する。

- ③ 近隣の園や小学校への保育公開等を通して、地域で学び合う体制の充実に努める。

(2) 秋田県教職キャリア指標（保育者）を踏まえた体系的・計画的な研修の推進

園内研修の組織的・計画的な推進や、関係機関等による外部研修への参加機会の確保に努め、それぞれの保育者がキャリアステージに即した実践的指導力を習得することができるようにする。